

げんの和清 活動レポート

県防災総合訓練に参加

金沢市内の数か所に分かれて、石川県防災総合訓練が実施されました。行政における国・県・市、更には医療関係者、自衛隊、民間企業など幅広く各々の役割を相互に連携することが求められます。大規模な訓練の中にも、相互の役割を繋ぐための確認が行われていました。



住民の方にお話をうかがいました

地元の民生委員の方のご紹介で、地域福祉の現場を実態調査。「調査なくして発言なし」。議会活動の根幹となる現場でのご意見を伺いました。



「食と健康の集い」をお手伝い

地元町会にて、食と健康の集いを企画。金澤タニタ食堂さんのご協力を得て、地域の皆さんと楽しいひととき。食と健康について学びながら、美味しいランチを共にしました。参加者の健康づくりへの関心の熱意を感じました。



英語でスピーチ 宮村英語賞表彰式祝辞

宮村英語賞は、元金沢大学、金沢工業大学教授(故)宮村一之氏から寄附された1,000万円を基金とし、昭和60年から英語教育の振興を図ることを目的として、英語学習に優れた中学3年生に奨励賞を授与しています。議長代理として、英語で祝辞を述べました。



げんの和清 <メールアドレス> genno@m3.spacelan.ne.jp

市議会控室

〒920-8577 石川県金沢市広坂1丁目1-1
TEL 076-220-2406 FAX 076-233-8819

自宅

〒920-8217 石川県金沢市近岡町108-7
TEL 076-255-0899

知っておくと便利な
「お役立ち」情報

法テラス

いじめ相談

ねんきんダイヤル

法テラスコールセンター

いじめ相談ダイヤル

お な や み な し
☎0570-078374

な や み お う
☎0570-0-78310

☎0570-05-1165

平成30年 夏号

げんの和清



市議会だより

平成30年3月定例月議会

▶ ホームページもご覧ください。

<http://www.komei.or.jp/km/kanazawa-genno-kazukiyo/>

▶ フェイスブックを始めました。

<https://www.facebook.com/GennoKazukiyo>

げんの和清

検索



歴史、伝統、文化の体感にICT活用を

金沢市議会平成30年3月定例月議会で登壇の機会をいただきました。観光客や市民が金沢の歴史・伝統・文化を体感できるようICT(情報通信技術)の活用を図るよう提言し、金沢市の取り組みについて質問しました。



質問と答弁の要旨は次のページ。

市が「緊急時あんしんシート」を作成 議会での提言が形に 緊急時、災害時の情報伝達に重要な役割

金沢市では現在、自分の連絡先や病状を一枚のシートにまとめ、災害時や緊急時に救急隊などに伝えることができる「緊急時あんしんシート」＝写真＝を作成し、配布されています。

「緊急時あんしんシート」は、平成25年9月定例月議会の一般質問で、「災害時や救急医療に有用な情報をクリアファイルに入れて冷蔵庫にマグネットなどで張ることで高齢者の救急医療活動にも使用できる」と提言した内容が市側に受け入れられ、実現の運びとなり、現在、民生委員を始めとして地域福祉の現場にて活用されています。シー

トには名前や生年月日をはじめかかりつけ病院、主な病気、連絡先などの情報を記入する欄があり、冷蔵庫にも貼り付けることができます。

問い合わせは、

金沢市役所長寿福祉課＝076(220)2288



地域で支え合う社会へ 善隣館モデル事業実施

ひとり親家庭支援 インフルエンザ予防接種助成 ゼロ歳児にまで拡大

公共文化施設の運営について

源野 音声ガイドやバーチャル技術など多様な情報技術が進化し続ける中で、文化施設への海外からの誘客を通じて、本市の歴史、伝統、文化をより深く体感できるようなICT化の取り組みについてどのように考えているのか

山野之義市長 金沢市の文化施設18施設すべてで、フリーWi-Fiの整備、ICカード、クレジットカードによるキャッシュレス化の対応を完了した。平成30年度は、鈴木大拙館で音声ガイドの多言語化を図るほか、金沢の文化を疑似体験できるバーチャルリアティー技術の活用に取り組みたい。AI(人工知能)を活用した自動翻訳機も進展しており、積極的に採り入れたい。

地域の支え合いについて

源野 今冬の豪雪で住民は地域における助け合いを改めて実感する機会があったのではないかと。地域安心生活支え合い事業の課題や対応をうかがう。

山野市長 ボランティア確保に苦慮する地区が多く、市民がボランティア活動に参加しやすい環境を整えるために、金沢ボランティアセンターで情報を集約し、受け手と担い手をマッチングするシステムを平成30年度に構築する。

源野 地域に開かれた共生社会をどのように具現化するのか。

山野市長 金沢市の福祉をリードしてきた善隣館で、高齢者や子どもの地域共生型の居場所づくりを進める「善隣館いこいの広場モデル事業」を進めたい。

源野 ご近所付き合いが減り、地域コミュニティの醸成が市政の課題となっている。日頃、接点がない人のつながるきっかけをどのように作れるのか、お互いの助け合いの気持ちがどのように育まれるかが政策課題となっている。みんなで支え合う地域ができることを願っている。

市議会3月定例月議会では、地域が支え合う共生社会の実現を図るよう質したほか、未婚のひとり親家庭への負担軽減、インフルエンザ予防接種支援策の拡充といった地域・社会全体で子ども・子育てを支援するための積極的な取り組みを市側に求めました。

これからも、市民お一人おひとりの小さな声にもしっかりと耳を傾けて議会に届け、施策に反映されるよう努めてまいります。



子ども子育て支援について

源野 保育利用申し込みにおける不承諾見込みが増加するなど、エリア別や年齢別による偏りが見られる。ゼロ歳児から2歳児保育のさらなる支援について、金沢市は次期計画策定にあたってどのような方針で臨むのか。

山野市長 計画策定に当たっては、子ども・子育て審議会に新たにワーキングチームを設置し、意見をいただくとともに、平成30年度に実施するニーズ調査を踏まえて、保育需要を慎重に見極めたい。

源野 老朽化し改築の必要がある施設や大規模改修を必要とする施設がある。今後の改善、増築、修繕についての市の施策を問う。

山野市長 施設の耐用年数を勘案し、施設側の要望を聞きながら、地域の保育需要への対応や認定こども園移行を機に、改築や修繕を行いたい。

ひとり親家庭の支援について

源野 経済的に厳しい状況に置かれがちなひとり親支援のため、インフルエンザ予防接種の助成対象範囲の拡充を図れ。

山野市長 現在、ひとり親家庭の1歳児から6歳児をインフルエンザ予防接種の助成対象にしているが、平成30年度以降はゼロ歳児にまで対象を拡大したい。